

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 2 columns: Field Name (e.g., 事業所番号, 法人名) and Value (e.g., 1176502100, ALSOK介護株式会社).

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

Table with 1 column: 基本情報リンク先

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 2 columns: Field Name (e.g., 評価機関名, 所在地) and Value (e.g., 株式会社ユーズキャリア, 埼玉県熊谷市久下1702番地).

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症状も比較的安定されているご利用者様が多く、穏やかに過ごされている。新型コロナウイルス感染症対策の為、外出自粛や面会の中止など制限がある中でホーム内のできる事を工夫しながら行っている。中でもおやつ作りではご利用者様との会話の中でやりたい事や食べたい物を聞き出しそれを一緒に作っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は大宮駅から10分圏内、鉄筋コンクリート造4階建、3ユニット定員27名のグループホームである。公共交通機関のアクセスも良く、本社が隣接されている。現在はコロナ禍により外部との交流を自粛しているが、施設内の納涼祭や誕生会等のイベントを積極的に行い、閉塞感を回避するための工夫をしている。

no

akusesu

Main evaluation table with 4 columns: Item No., Item Description, Achievement (radio buttons), and Item No., Item Description, Achievement (radio buttons).



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型の施設である事を踏まえ、ご家族様や近隣住民の皆様、地位包括支援センター様と連携を図っている。また、地域の高齢者介護の拠点として信頼されるよう努めると共に、理念を職員会議等で全スタッフが確認し、実践に繋げている。	理念に沿って行動したことを毎月の職員会議等で報告し、理念の確認や振り返りをして意識の共有を図って実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	以前は地域のボランティアに来て頂いたりしていたが、新型コロナウイルス感染対策の為、ボランティア来訪やイベントの中止が余儀なくされ、地域との繋がりが減っている。近隣の公園や買い物に出掛けた際には挨拶を交わしている。	自治会に加入しており地域との関わりを持っている。コロナ禍前は敬老会や動物専門学校のアニマルセラピー等を開催して地域と交流していたが、現在は難しいため、ブログにてホームの近況を発信している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方から認知症についてや施設についての質問等があった場合は、質問にお答えしたり資料をお渡ししたりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染症予防の為、今年度は運営推進会議を開催出来ていない。自治会や役所とはメールや電話等で連絡を取っている。	奇数月に市役所や自治会に状況報告等を行っている。家族には毎月の「ひとこと通信」にて近況報告を行い、意見や要望を伺っている。対面の運営推進会議はコロナの状況をみて再開する予定である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	役所担当者にはメールや電話等で状況を伝え、協力関係を築けるよう心掛けている。	市担当者には電話やメール等で入居者の様子やケアサービスの取り組みを伝えている。コロナ前は運営推進会議にも参加いただいております、良好な協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に1回、身体拘束廃止委員会、年に2回研修を実施している。順番に2~3名ずつのグループで議題決め・資料作り・発表・議事録作成までを行なう事で、全スタッフが身体拘束をしないケアについての理解を深めている。	年4回の身体拘束廃止委員会と年2回の研修が行われ、2~3名ずつのグループで順番に議題を決め、資料作りや発表、議事録作成を行うことで理解を深め、全職員が拘束による弊害やリスク等を理解して意識の共有を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	3ヶ月に1回、虐待防止委員会、年に2回研修を実施している。事業所内での虐待の芽になる様な案件について話し合い、虐待防止やスタッフ同士注意しあえる環境作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者・ケアリーダー等は、成年後見人制度について説明出来る知識を有している。現在は成年後見人制度を活用しているご利用者様はいないが、必要に応じてご家族様に説明出来るようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に先立ち、必ず管理者が重要事項について説明させて頂き、ご家族様にサインを頂くようにしている。又、その際に不安や疑問に思っている事等を確認し、説明するようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現在面会が出来ない為、ご家族様には定期的にお電話やひとこと通信にて状況報告をさせて頂き、その際に要望や質問等を伺うように努めている。又、本社から年に1度ご家族様宛にアンケート調査を実施し、その内容が介護現場にフィードバックされ、業務改善に反映させている。	コロナ禍のため面会は自粛していただいているが、定期的な電話や毎月の「ひとこと通信」にて近況報告等を行い、意見や要望を伺っている。年に1度、本社にて家族宛にアンケート調査を実施している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にヒヤリングを設けたり、職員会議・フロア会議等にて意見や提案を聞く機会を設けている。	管理者は日頃からコミュニケーションに心がけており、話しやすい雰囲気づくりに留意している。定例の職員会議やフロア会議で意見や提案を聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各スタッフの資格取得の為の研修や報奨金制度の導入等で、スキルアップに報いる方途としている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本社主催にて、職階別或いは経験年数別の研修が実施されている。又、自己啓発研修にも自由に参加出来るようになっていく。事業所内でも、職員会議内で勉強会を設け、スタッフ一人ひとりのスキルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症介護実践者研修を初めとして、外部研修の費用を会社負担とする等、資質向上の為の機会を作っている。又、グループホーム協議会に加盟し、同業者と交流が持てる機会を作っているが、今年度はコロナ渦のため参加出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居にあたり、管理者や計画作成担当者が必ずご本人様と面談し、ご意向の確認を行ない、サービス開始時の暫定ケアプランに反映させている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご入居にあたっては、管理者のみならず、担当フロアの責任者がご本人様やご家族様と出来るだけお話させて頂く機会を作り、スムーズな新生活が送れるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実態調査時・ご入居後の状況等を細かく把握する事で、ご本人様・ご家族様にとって、どのようなサービスが適切であるか等を考え、提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援の観点からも、日常生活上の家事等は、ご本人様の負担にならない範囲で、一緒に行なうようにしている。事業所内の設え等もご利用者様と一緒に取り組むように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月送付する近況報告やお電話にて近況を報告させて頂き、誕生会などイベントの写真付きのお手紙も近況報告とは別で作成し送付している。ブログ等でいつでも普段のご様子が閲覧できるようになっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染症予防の為、現在面会が停止となっているが、お電話で状況報告をする際にご本人様とお話して頂く等、関係が途切れないよう努めている。ご家族の希望があればガラス越しでの面会は行っている。	現在はコロナ感染予防のため面会を自粛していただいているが、家族の希望があればガラス越しでの面会を行っている。電話で状況報告をする際には本人に取次いだりしている。手紙での交流の支援を行い、書けない方には代筆したりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロア内での座席の配置に気を配り、介護職員が間に入り会話をリードする等して、ご利用者様同士の会話が弾むよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も季節のご挨拶や定期的なご連絡を絶やさないよう努めている。退居後も、ご家族様から近況報告のご連絡を頂く事もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中での行動や会話からご利用者様の想いを汲み取り、ご利用者様の要望に出来る限り対応出来るよう、スタッフ間で共有しながら日々のケアに取り組んでいる。	日々の関わりのなかで言葉や表情等から、本人の思いや意向の把握に努めている。フロア会議で情報共有し、家族とも相談してどのように暮らすことが最良なのかを日々検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居実態調査時やケアプラン作成時等を通して、ご本人様やご家族様から生活歴等の情報を出来るだけ収集し、サービスの向上に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録、バイタル表等、各種の記録を詳細にとる中で、常に変化をご利用者様の様子の把握に努め、必要に応じて医療関係者と連絡を取る等して、状況の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月毎のモニタリング時・6か月毎のケアプラン更新時には、必ずご本人様・ご家族様のご意向をお伺いし、カンファレンスを開いて、より良いサービスの提供を心掛けている。	3か月毎にモニタリングを実施し、計画の見直し時には本人と家族の意向を伺ってカンファレンスを開催したうえで計画を作成している。状況が変化した際には話し合いを行い、現状に即した計画に変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録や申し送りノート等を活用し、担当スタッフ間で情報や問題意識の共有を図り、フロア会議やカンファレンスの際に深い議論が出来るようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて、外部サービスを取り入れる等、その時々のご本人様・ご家族様のニーズに柔軟に対応出来るよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月届く自治会の会報にて、地域行事の情報等を把握し、豊かな生活環境作りの一端としている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療医・医療連携看護師・薬剤師とは密に連携を取り、ご利用者の身体状況や薬について等、積極的に質問し相談している。生活記録を細かく記入する事で、往診時等に普段の様子を伝えている。	月2回の協力医と歯科医の往診があり、週1回の歯科衛生士と医療連携看護師の訪問があり、適切な医療が受けられるように支援している。入居前からのかかりつけ医の受診は家族対応で可能である。精神科通院の際は職員が同行し状況の説明をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的な往診以外にも、発熱や痛みの訴え等軽微な症状でも密に連絡を取り、指示を仰いだ上での対応に努めている。必要に応じて、臨時個別往診等の対応をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護サマリーを作成し、こまめに連絡を取り情報交換に努めている。又、退院時に於いても状況把握とその後のサービスの在り方について、医療機関や訪問看護等と情報交換するようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化の際の説明を行ない、医療行為が必要になった際の対応について予めご家族様と話し合いを重ねている。ご家族様とこまめに連絡を取り合い状況報告に努め、ご家族様の希望をできるだけ受け入れ感染対策を徹底した上で面会を緩和している。	重度化した場合における指針を定めており、入居契約時にホームで対応できる範囲について入居者と家族に説明を行っている。状況変化の際には医師より家族に説明して話し合い、支援についての方針を決めている。ホームでの看取りを希望された場合、可能であれば対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応について、全スタッフが把握出来るよう職員会議等で常に確認を行ない、慌てずに実践出来るよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定を含めた年2回の消防訓練を実施する際は、地域の消防署の指導を頂き、緊急時・災害時の対応力を身に付けるようにしている。本社との合同訓練を行ない、本社との連携にも力を入れている。	6月に消防署立会いのもと夜間想定のお知らせ・避難・消火・搬送訓練を実施しており、次回は12月に本社との合同訓練を予定している。今のところ、地域住民の参加までには至っていない。	近年、火災や地震・水害等の自然災害が各地で発生しており、地域との協力関係が求められている。地域のためにもなる講習会等、訓練の開催方法を工夫して近隣の方の参加が得られることが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常的にご利用者様一人ひとりの人格や個性を尊重し、プライバシーに配慮した言葉かけや対応を心掛けている。居室小窓に切り紙を貼る等し、居室内が丸見えにならないよう配慮している。	定例会議で事例検討を行い、人生の先輩として敬う心を持って一人ひとりの人格を尊重し、周りに配慮した言葉かけや対応ができるようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中でご本人様の自己決定を促すような言葉掛けを心掛けている。過去の生活歴やご家族様からの情報を基に、ご本人様の隠れたニーズまで掘り起こし、より心豊かな毎日を送って頂けるようサポートしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様の生活サイクル・ペース・嗜好等を大切にし、レクリエーションやお手伝い等においてもご自身の意思を尊重するようにしている。起床時間や就寝時間についても幅を持たせて対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族様の上承を頂いた上で、ご本人様と近くの衣料品店で洋服を買う等、ご本人様好みのおしゃれが出来るよう支援している。又、パーマやカラーリング、化粧等も自由に楽しんで頂けるような体制を整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常の食事に関してはチルド食を採用し、スタッフが準備をしている為、主に下膳や片付け等を一緒に行なって頂いている。又、季節の食材を取り入れたおやつ作り等を企画・開催し、季節感を大切にしている。	専門業者によってカロリー計算された食事を一人ひとりに合った食事形態で提供している。毎月「おやつレクの日」を設けており、担当職員と入居者で話し合ってメニューを決めている。10月はカボチャを使ったおはぎや桜餅・すいとん等を職員と一緒に作り楽しんでいただいている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各ご利用者様の状態に合わせた食事形態を細かく配慮している。ご本人様のお好きな飲み物を購入したり、食事が進まないご利用者様には無理なくおやつレクリエーションなどで楽しく栄養を摂って頂けるよう工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず全員の口腔ケアを実施し、訪問診療の歯科医師や歯科衛生士からの口腔内の健康維持についてのアドバイスを得て実行している。又、毎週月曜日に義歯洗浄を行ない、清潔を保つようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を活用する事で、各々の排泄パターンの把握に努め、こまめなトイレ誘導や声掛けをし、出来る限りトイレで排泄が出来る様支援している。	排泄は個々の習慣やパターンを把握し、一人ひとりに応じて支援方法を検討している。トイレでの排泄を目標とし、自尊心に配慮し、さり気ない声かけで誘導して自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	当社独自の健康増進プログラムの体操を積極的に取り入れたり、オリゴ糖等を使用する事でスムーズな排泄を心掛け、必要に応じて医師の指示の下、服薬によるコントロールをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一番風呂がお好きな方、熱めなお湯がお好きな方等、様々なご希望に添えるよう努めている。浴槽を跨ぐのが難しい方にはリフト浴で安全に入浴して頂いている。羞恥心の強い方には、できる限り同性介助で対応している。	入浴は一人ひとりの気分や体調を考慮し、週3回午前中に支援している。現在入浴を拒否される方はいないが、無理強いせず同性介助や時間をずらすなどの対応をしている。季節に応じた柚子湯等を提供し、ゆっくり入浴していただけるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お昼寝の習慣がある方や夜比較的に遅くまで起きておられる方等、お一人お一人のリズムを大切に、起床・就寝の時間は幅を持たせた対応を心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	日常的に使用する記録のファイルに個別の薬表があり、変更があった場合には申し送りノートや服薬管理表等を用い、スタッフ全員が把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事はなるべくご自身でやって頂く事で、ご本人様が役割や楽しみ・達成感等を見出す事が出来るよう支援している。又、日常の会話等からもご本人様の思いを汲み取れるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス対策の為、お花見等のイベントは自粛しているが、事業所の近隣の公園まで散歩に出掛けたり、コンビニやドラッグストアへ買い物に出掛けたり外気浴を行なっている。	現在コロナ禍のため、花見等のイベントは自粛していただいているが、近隣の公園やコンビニ、ドラッグストアに出かけ、気分転換に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金の管理は事業所で行なっているが、ご本人様の状況に応じて、ご家族様了承の下、少額の現金を持って、近くのコンビニやドラッグストア等に買い物へ出掛ける事がある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りが出来る様、ご本人様が書けない場合はスタッフが代筆している。又、電話を掛けたいとお申し出があった際は、事業所の電話をご利用頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じて、館内のしつらえを変えたり、花を飾ったりして季節感を演出している。又、ディスプレイはご利用者様にも一緒に作成して頂き、思い出深いものとなるよう工夫している。	共用部分のフロアは明るくゆったりと過ごせるスペースになっている。季節の花や作品等を飾って季節を感じていただいている。空調に気を配り、室温・湿度を管理して居心地よく過ごせるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールは憩いの場として、ソファの配置や畳の間を設けており、ご利用者様がお一人になれたり、ご利用者様同士で思い思いに過ごせる居心地の良い環境作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人掛けのソファやテレビを置いたり、写真やご家族様からの手紙等を居室内に飾る等して、少しでも心安らげる空間になるよう工夫している。又、居室小窓には切り紙を貼る等して、プライバシーに配慮している。	今までの生活スタイルで暮らせるように、使い慣れたものや思い出の品、軽作業用のテーブルや椅子・写真等を持ち込んでいただき、居心地よく過ごせるように配慮している。室内は毎日職員が清掃し、清潔が保たれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	居室入口には表札を貼ったり、トイレの使用状況がわかる様なボードを用意する事で、出来るだけ自立した生活を送れるよう努めている。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	13	近年、火災や地震・水害等の自然災害が各地で発生しており、地域との協力関係が求められている。地域のためにもなる講習会等、訓練の開催方法を工夫して近隣の方の参加が得られることが望まれる。	自治会と連携を図り、事業所で行なっている消防訓練や勉強会等の開催日や内容等を近隣の方へ知って頂く。	消防訓練や勉強会等の日程を自治会の回覧に同封させて頂き、近隣の方の参加が得られるよう周知する。 ブログを用いて開催日時や内容等の告知する。	12ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。